

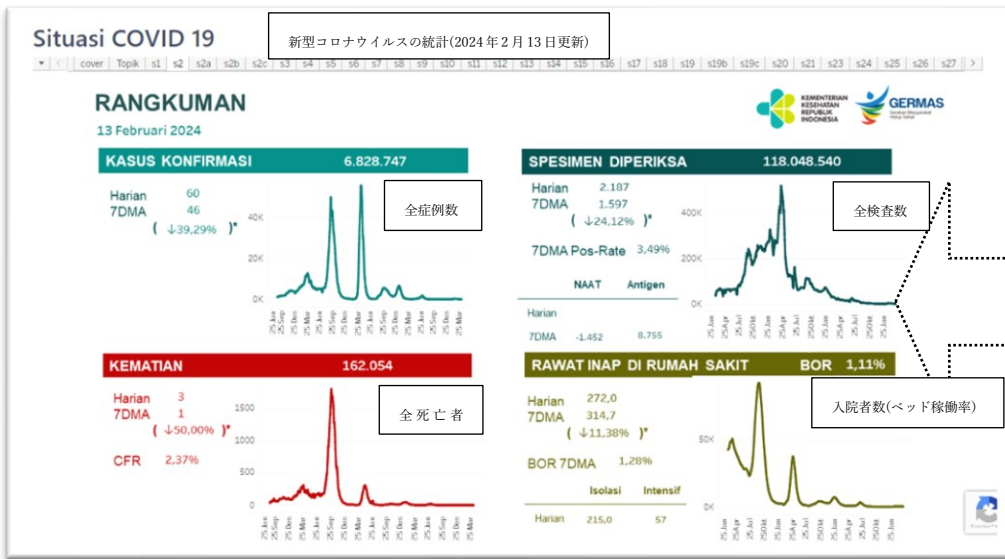
ほけん便り 24号 チカラン日本人学校 保健室

学校生活でのマスクについて考える その1 感染について

令和6年2月21日

昨年5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことを受け、本校でも文科省からの指針に従いお便りでその旨をお伝えしています。

1. 教育活動において学校でのマスクの着用は求めないことを基本とします。
2. 当地は常夏のため体育や外活動ではマスクをはずす指導をしています。
3. 学校での感染症対策(手指衛生、換気、健康状態の確認、咳エチケット)の継続をしています。



当地の公衆衛生に関するデータや法律・情報は **Kementerian Kesehatan** (インドネシアの保健省)で確認できます。

参照
(<https://layanandata.kemkes.go.id/>)

Kementerian Kesehatan によると、当地での新型コロナウイルスの感染状況は昨年6月以降落ち着き、現在も引き続き平時の状態であることが確認できます。

日本では、今年2月に厚生労働省がマスクの着用の考え方として「個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断が基本」という指針を出しました。着用について個人で判断してもよい時期であるからこそ様々な情報を元に判断してほしいと願っています。

しかし、個人の判断は時に選択に迷う場面があります。

そんな時、現在明らかになっている事実とともに、いくつかの視点でメリットとデメリットを総合的に判断し、自分にとってメリットが大きい方を利益が大きいとして考えてみることをお勧めします。

では、感染状況が平時の場合、教育現場でのマスク着用のメリットとデメリットはどんなことが考えられるでしょうか？

メリット

- ・人混みの中での飛沫感染を予防
- ・全身状態が良好だが咳や鼻水が長引いている時でも登校が可能



デメリット

- ・言語や音楽の学習時、口形模倣への影響
- ・表情などの非言語コミュニケーションの学習に影響



次号は 大気汚染について考える です